

日交研シリーズ A-785

平成 31 年度自主研究プロジェクト

包括的富における交通インフラの基礎的研究プロジェクト II

刊行：2020 年 6 月

地域の包括的富と自然資本・防災

a study of natural capital and disaster management in the comprehensive capital measures

主査：庭田 文近（城西大学現代政策学部准教授）

NIWATA, Fumichika

要 旨

本研究は、2018 年度より地域の包括的富指標（IWI）の理論およびその評価手法について整理を行い、その中でも特に地域住民の福祉と持続可能性に大きく影響しうるであろう交通インフラストラクチャーと環境ないしは自然資本の扱いについて検討を加えてきた。

本冊子は、そのプロジェクトの 2 年目の成果として、自然資本と持続可能な交通に関する議論を紹介するとともに、包括的富と地域防災の関係について検討している。すなわち、第 1 章「自然資本と維持可能な地域発展」では、自然資本の定義とその経済価値の評価法を紹介するとともに、自然資本と持続可能な地域経済発展および持続可能な交通を巡る議論について国内外の文献をレビューしている。つづく第 2 章「地区防災計画制度は包括的富を地域社会にもたらすことは可能か」では、地域防災の理念とガバナンスの概念、地区防災計画制度の内容と展望について紹介するとともに、地区防災計画制度を通じて地域社会が包括的富を生み出す主体として、ローカルガバナンスを構築していく可能性を検討している。

キーワード：自然資本、持続可能性、地区防災計画、ガバナンス・ネットワーク

Keywords : Natural Capital, Sustainability, Community Disaster Management Plan,
Governance Network